

科目名称	運動療法学
授業コード	AD225
英語名称	Therapeutic exercise
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	相原 正博, 五味 雅大, 北山 哲也, 山田 洋二
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>理学療法士は、各疾患に対応すべく、治療的側面で起こる様々な事象を常に的確に捉え、QOL向上に向け、ニーズに応じた治療アプローチの方略と手段を変換していくことが要求される。特に理学療法の中で最も代表的・中心的な柱として挙げられるのは、運動療法であろう。その為、解剖学、生理学、運動学を基礎とし、また、各疾患学を網羅した総合的な内容を統合・解釈し、さらに臨床現場で実践していくことを必要とされる。</p> <p>そこで、本講義は、運動療法の軸となるべき各理論に主眼を置き、理学療法士として様々な疾患を担当した臨床経験を持つ教員が講義・演習を通じて、臨床場面における事象ひとつひとつについて説明する。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	病院にて長年様々な領域のリハビリテーションに従事してきた教員が、その経験を活かして、理学療法における運動療法の基本的な事項について、応用的な疾患別運動療法を修得する前の導入として講義する。
到達目標	<p>ディプロマ・ポリシーにある基本的な理学療法を実践できる知識と技術を身に付けるため、以下の目標を掲げている。</p> <p>【科目特有の知識・技術についての到達目標】 運動療法に関する基礎理論について、深く学習し、理解・説明し、実践できるようになる。</p> <p>【汎用能力としての学士力についての到達目標】 運動療法学の基礎に触れ、将来の社会人としての実効性を持つようになる。</p>
計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運動療法に関する基礎知識：相原（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</li> <li>2) 関節構造と関節運動学（拘縮のメカニズムを中心に）：相原（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</li> <li>3) 運動療法の基礎（関節可動域運動）：相原（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</li> <li>4) 筋収縮メカニズム（筋長と張力）：相原（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</li> <li>5) 筋収縮メカニズム（筋力増強のメカニズムを中心に）：相原（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</li> <li>6) 運動療法の基礎（筋力増強運動）：相原（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</li> <li>7) 運動療法の基礎（姿勢異常）：山田（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度） 復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</li> <li>8) 運動療法の基礎（バランス・平衡機能低下）：山田（理学療法士） 予習：指定教科書、授業資料を読む</li> </ol>

計画・内容	<p>復習：講義範囲の関連資料をまとめる。</p> <p>9) 運動療法の基礎（バランス・平衡機能低下）：山田（理学療法士）  予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度）  復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</p> <p>10) 運動療法の基礎（起居移動動作能力低下）：五味（理学療法士）  予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度）  復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</p> <p>11) 運動療法の基礎（起居移動動作能力低下）：五味（理学療法士）  予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度）  復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</p> <p>12) 運動療法の基礎（感覚異常）：五味（理学療法士）  予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度）  復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</p> <p>13) 運動療法の基礎（臨床応用）：北山（理学療法士）  予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度）  復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</p> <p>14) 運動療法の基礎（臨床応用）：北山（理学療法士）  予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度）  復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</p> <p>15) 運動療法の基礎（理解度の確認）：相原・山田・五味（理学療法士）  予習：指定教科書、授業資料を読む（40分程度）  復習：講義範囲の関連資料をまとめる（40分程度）</p>
授業の進め方	指定教科書や配布する資料を参考にしながら、講義を進める。 他に適宜ビデオや資料などを提示し、講義内容の理解を図る。
能動的な学びの実施	学生への質問も活発に行う予定であるため、積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと（各回1時間～2時間） ・教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。（合計15時間程度）
教科書・参考書	教科書：対馬栄輝 編集「運動療法学」MEDICAL VIEW 参考書：岩倉博光 監修「理学療法士のための運動療法」,金原出版, 千住秀明 監修「運動療法」,神陵文庫など。 その他、開講時にプリントにして配布する。
成績評価方法と基準	期末試験（100%）によって評価。
課題等に対するフィードバック	・学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法 ・授業中課題50%と期末レポート50%で評価する。